

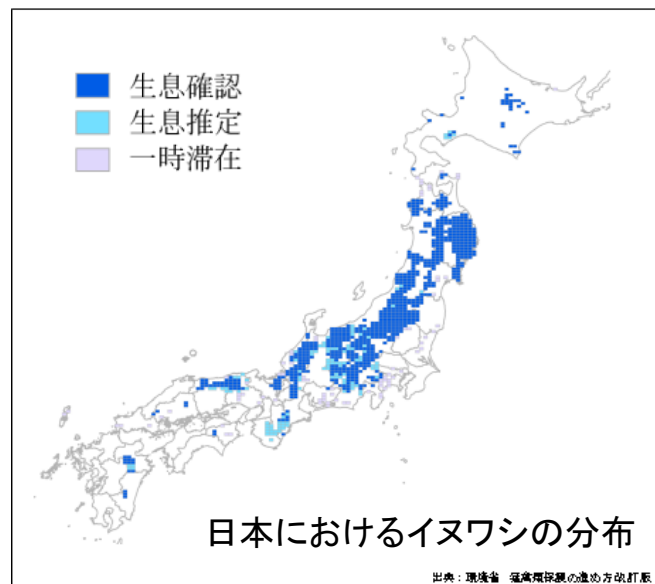
1. 背景

1996年 イヌワシ保護増殖事業計画

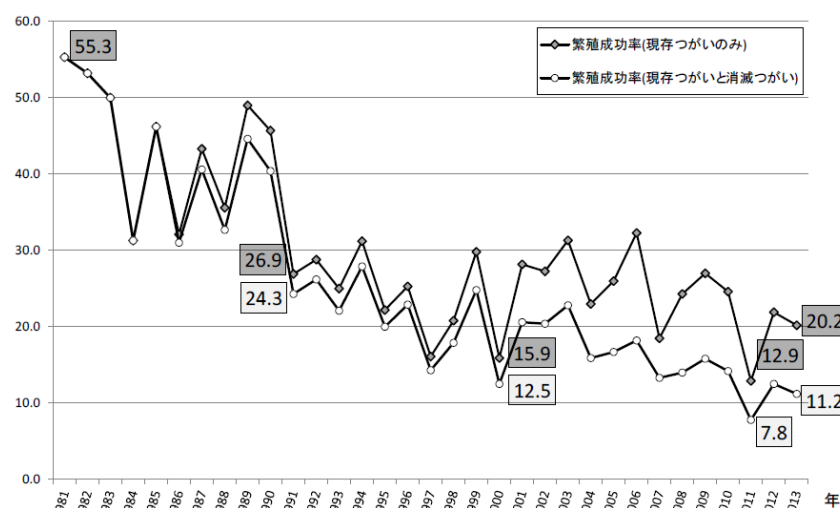
「イヌワシが自然状態で安定的に存続できる状態」を目標として設定

- ・餌動物や狩場の減少など
- ・個体数の減少や繁殖成功率の低下が継続

- ◆生息個体数
 - 2004年：最大650羽と推定（環境省希少猛禽類調査）
 - 2014年：約500羽と推定（日本イヌワシ研究会）
- ◆繁殖成功率
 - 2015年：全国平均11%（日本イヌワシ研究会）



日本イヌワシの繁殖成功率の変化



引用：日本イヌワシ研究会報道発表資料(2015.3.3)

2015年 イヌワシ保護増殖事業マスタープラン

各種取組が事業計画の目標達成にどの程度寄与しているのか評価ができない

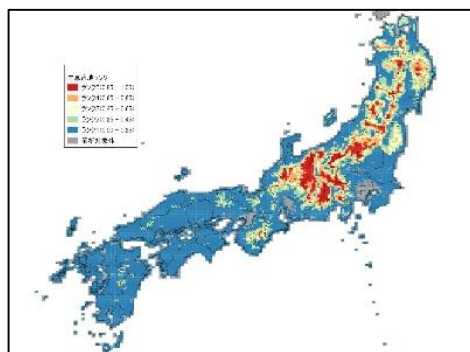


イヌワシの生息数増加につながる取組みを全国で推進するため、**目指すべき具体的な目標の設定が必要**

2. 検討方法

生息適地解析

現在のイヌワシ生息状況をもとに、生息環境として適した要素(平均標高、開放地面積、植林地以外の森林面積等)を抽出して、生息適地評価を実施



全国スケール

- ・ポテンシャルマップ作成
- ・生息適地の抽出

※イヌワシの分布情報は2004年に整備した2次メッシュ単位のもの、その他の変数は2004年前後に得られたデータを用い、5kmメッシュ単位で解析。開放地面積は衛星画像(30m解像度)及び植生図から把握。

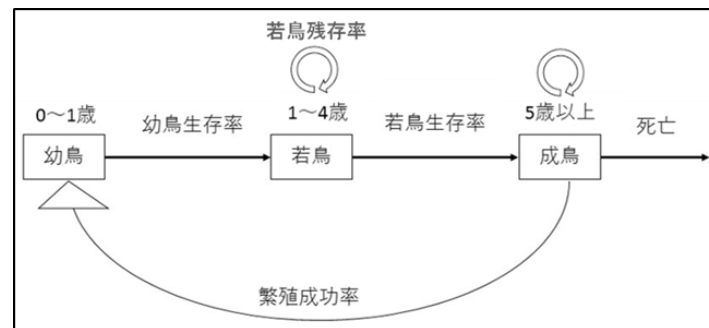
地域スケール

- ・つがい数と環境要因の関係を解析
- ・生息確率と繁殖成功率や開放地面積などとの関係を解析

1つがいあたり必要な面積(森林・開放地)の算出

個体群存続可能性分析(PVA)

様々なデータ(個体数、年齢別死亡率、寿命、繁殖成功率)を用いて個体群の将来の存続確率をシミュレーション



➡初期つがい数を現状の174つがい、繁殖成功率を36.17%とした場合、100年後のつがい数の中央値は増加傾向となり、安定的に維持される

目標繁殖成功率の算出
安定的に存続できるつがい数の確認

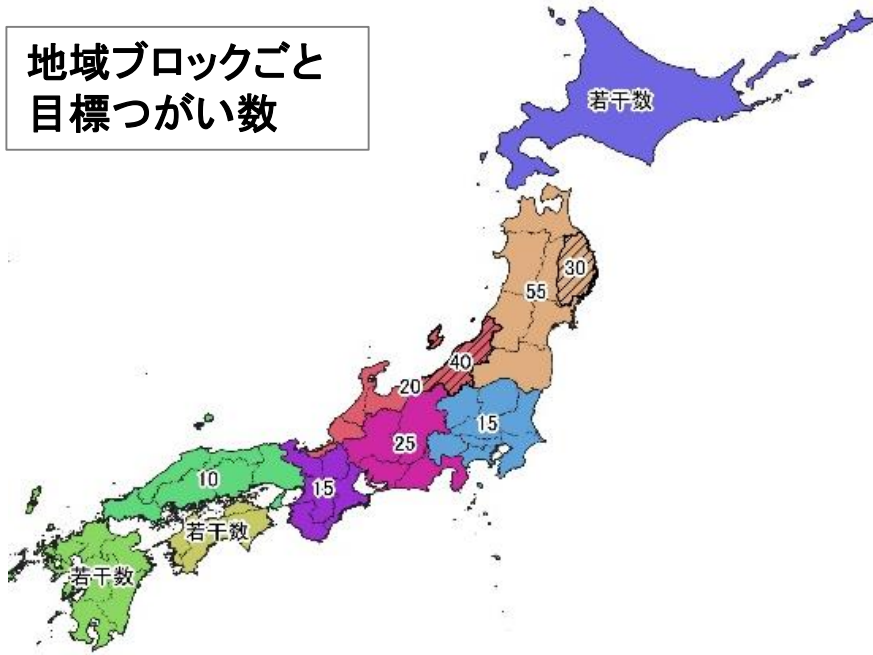
全国目標つがい数・繁殖成功率の検討・設定、ブロック単位への割り振り

3. イヌワシ生息地拡大・改善に向けた全体目標

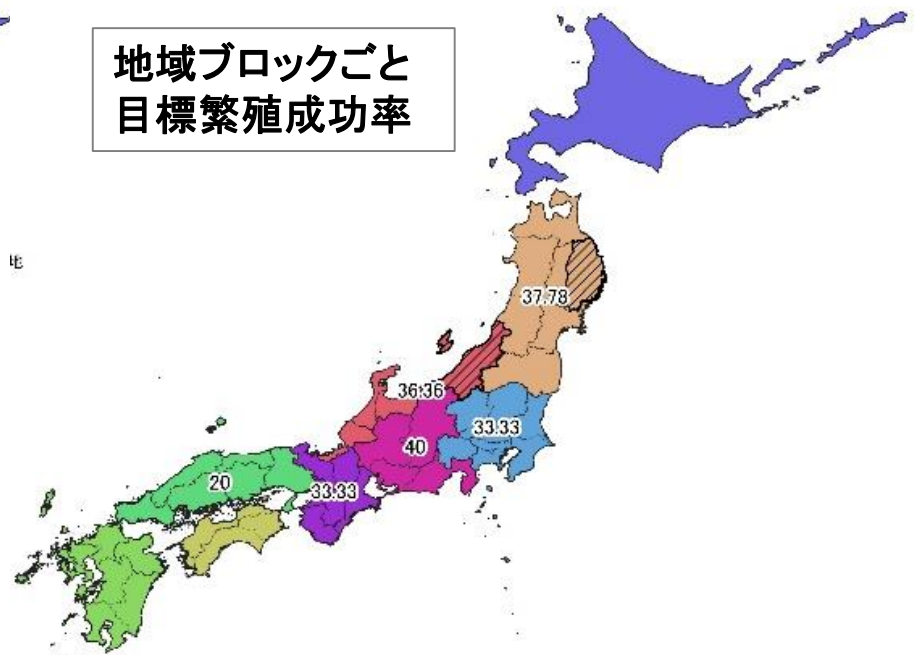
全国の目標つがい数
206

全国の目標繁殖成功率
36.17%

地域ブロックごと
目標つがい数



地域ブロックごと
目標繁殖成功率



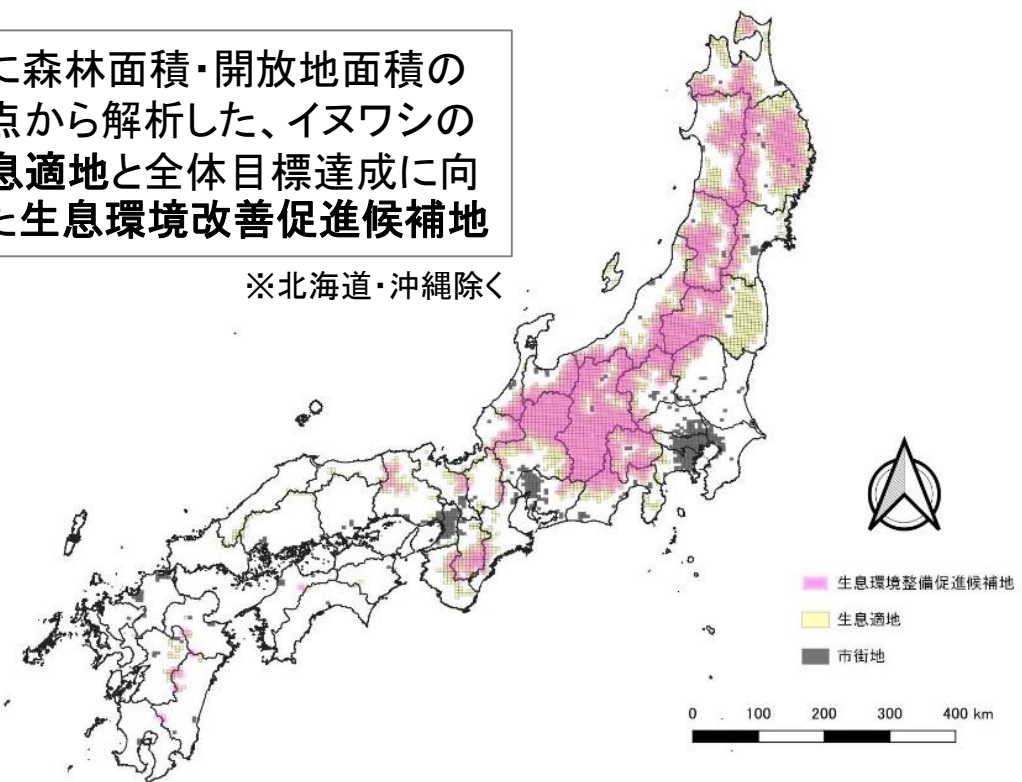
全体目標達成に向けた取組を効果的に進めるためのツールとして、**生息環境改善促進候補地を抽出**

＜生息環境改善促進候補地の抽出方法＞

- ・生息適地解析で生息確率が高かったメッシュ
- ・1つがいあたり必要な開放地面積及び広葉樹林面積を増やした場合に生息確率ランクが上がったメッシュ
- ・上記メッシュの周辺地域

主に森林面積・開放地面積の観点から解析した、イヌワシの生息適地と全体目標達成に向けた生息環境改善促進候補地

※北海道・沖縄除く



目標つがい数・繁殖成功率の達成に向け、図を参考に、現地の状況や過去の生息状況などと照らし、地域ごと・つがいごとの詳細なデータを得ながら必要な対策を検討し、採餌環境の改善等の取組を促進していくことが重要

(注) 主に開放地面積・広葉樹林面積等から一律に解析・抽出された地域であること等に留意。抽出されていない生息地や過去に生息が確認された地域でも、つがい数・繁殖成功率の維持・向上に向けた取組が必要な地域がある。

4. 全体目標を踏まえた取組の展開

⇒**地域ごとの目標を達成するための必要な施策・取組を進めるとともに、関係機関に働きかけ**

- (例)
- ・個体数の減少又は繁殖成功率の低下等の著しい地区における採餌環境の改善
 - ・猛禽類保護の進め方や風力発電立地検討のためのセンシティブティマップの改定
 - ・野生復帰 / 生息域外保全の必要性・可能性の検討
 - ・地域の森林管理者や関係者等への普及啓発
 - ・地域の生態系保全・生物多様性の向上

(問い合わせ先)
環境省自然環境局野生生物課
希少種保全推進室 03-5521-8353